

# 里山の風便り

報 会  
第2号  
茨木里山  
を守る会

## 多種多才を原動力に

### 第6期定時総会報告

4月14日、第6期定時総会が福祉文化会館で開催されました。

昨年は会の5周年にあたり、総会後に記念パーティを行いました。今年には通常通りの総会を予定していたところ、懇親会を望む声が強くなり、急遽実施することになり、かなりの突貫準備をやりました。担当された皆さんには、改めて感謝の意を表します。



(ご夫婦で参加の7期生の安原さん)

守る会も発足後丸6年を経過し、7期生も加わって会員数は百名を超えました。意識の多様化は必然です。その変化はこの2、3年顕著になったように思います。その背景の一つに、活動地の変転があります。妙見古道はいずれ新名神高速道路になるとは聞いていましたが、実際に活動が制限を受けて初めて実感しました。活動に対する危機感もその時初めて生まれました。幸い地元千提寺地区の皆様方の温かいご理解とご協力により新活動地への展開が可能となり、ようやく秋眉を開くことができました。ホームグラウンドとしてしっかり位置づけていかねばなりません。また、同じころに竜王山西面を守る会が整備活動を始め、昨年7月にはネット茨木と覚書を交わすことで、正式にわれわれの活動地として認知されました。

仁の森も加えた3活動地が当面われわれの活動の舞台となります。この活動地の展開で皆さんの意識に与えた影響は、かなり大きなものがあつたように思います。

次いで、森林サポーター養成講座をはじめ、シニア自然大学校やJICA等への支援活動の体験からも大きな刺激を受けました。孫のような学童を対象とする体験イベントの経験も同様です。

さらに、安全を重視したチェーンソー研修も継続して実施してきました。それらの経験が意識の多様化を促進し、活動の幅を広げてきたように思います。

具体的に、**山菜クラブ**の活動であり、そこから発展した**希少植物保護移植委員会**の発足です。また、会報を発行する**広報委員会**が誕生し、それと並行するように、若い皆さんによるイメージキャラクターW.G.が、**キャラクター委員会**に衣替えし、間もなくキャラクターの募集を始めます。さらに体力等の問題で山には入れないが、仲間

と一緒に楽しみたいと**ネイチャークラフトクラブ**が発足しました。昨年10月、活動地でカシナガが穿入したコナラが発見され、**ナラ枯れ対策委員会**がスタートしました。

このように、クラブ活動、委員会活動が百花繚乱の如く開花しました。それらの殆どが皆さん方の自主的な意思によるものです。「自発性・自主性」こそがボランティア活動の原点です。同時にそれが当会には多種多才な人間が集まっている証明とも言えます。地道な努力を通じてそれぞれのクラブ、委員会が立派な成果を挙げられることを心から願ってやみません。

これらに共通するのがコミュニケーションの問題です。われわれは、里山を守りたいとの思いで結集しました。その仲間と一緒に汗を流し、飯を食らい、酒を飲み語らう。そのような仲間との絆を求めていることも事実です。

総会後の懇親会は時間が短かったものの大いに盛り上がりました。自由席のはずが自然と同期生が集まっていました。その中で大先輩の1期生北本さんは、80歳を超えて



(会への思いを語る北本さん)

おられますが、「山の活動は無理だが、この会には毎年出たい」とおっしゃって頂きました。これからは是非そのような会であり続けたいものです。そして、山でも一緒にいい汗をかきましょう。(長谷川淳朗)

## 年間活動計画

Motto: 安全で楽しむ

(活動時間)		サマータイム			10時~15時		
10時~15時	9時~12時	4月	5月	6月	7月	8月	9月
(活動日) 毎月の第1・第2・第4土曜日と第3金曜日							
(集合場所) 原則「里山センター」							
(活動場所) 千提寺新活動地、妙見古道、魁の森、竜王山西面等							

### ◆ 保全活動

### ◆ 特別活動

### ◆ 「サポートネット」

- 4月21日(土)は、野草料理を楽しむ会を催します。(実施済)
- 農業祭実行委員会 は、6月に立上げ、準備を進めます。
- 8月4日(土)は、夏休み親子工作教室&ソーメン流しです。
- 秋に、一泊自然観察会、12月15日は餅つき大会、1月12日は豚汁会を催します。
- その他、会員相互の親睦を深める行事を計画中です。ご家族、友人、知人に声掛けてご参加ください。

### ◆ 「サポートネット」

- 活動日... 原則火曜日・木曜日
- 観察林整備
- 観察林整備
- 千提寺(センター裏山) 整備
- 桜の苑整備



- 活動日... 原則火曜日・木曜日
- 観察林整備
- 観察林整備
- 千提寺(センター裏山) 整備
- 桜の苑整備

(松股征男)

2011年度下半期

里山保全活動報告

新活動地については、里山センターからのアクセス道路に、裏山稜線伝いの古い里道を千堤寺自治会の助言を受けて修復し、整備を完了しました。

新活動地対策委員会(松田委員長)

から、面積、境界、植生、危険木、生態系保全、人工林整備計画、地図作成等多岐に亘る調査報告を受けました。

(新活動地の里道)



それを基にした活動計画が運営委員会と千堤寺自治会の承認を受けたので、今年度から本格的な活動を開始します。

魁の森と仁の森については、新名神インターチェンジ関連工事内容が判明し、残念ながら二つの森は、ほぼ姿を消すことになりました。

昨年末に、妙見古道も含めたこの地域の最後の整備を終え、1月7日に今年の活動の無事を祈り、入山式を執り行いました。これには過去最高の44名が参加しました。今冬はこれを反面、好機と捉えて炭材等有用木の伐木を重点的に行い、動力機械の取扱い技術の向上を図りました。

この中には樹高25m伐根直径63cmのコナラの巨木の伐木を体験しました。竜王山西斜面の整備は、『茨木市ふれあい

の森構想』の下、ネット茨木との覚書で「守る会」が主体となって、整備活動をする事になりました。

今年は、作業道周辺の草刈り、側溝整備と水道施設上部の山林の整備を行い、秋には柴栗拾いが出来る森になりました。

これは地主さんも承認済みですから、秋にはぜひ栗拾いに来てください。

一昨年ぐらいいから京都大文字山で発生して、有名になったナラ枯れが、とうとう私達の森へ侵入してきました。竜王山エリアで調査の結果、11本の大径木コナラにカシノナガキクイムシの侵入が確認され、更にこの奥にも多数のコナラ、アベマキ等に現象がみられ、又、里山センター裏山にも一本のコナラに侵入を発見し、被害の拡大防止のために伐木して、炭窯で焼却しました。

新名神高速道路インターチェンジ等の工事で多数の希少植物が危機を迎えています。

里山の女王とも言



(コナラ巨木伐倒)

委員会を発足させました。

このような実績を踏まえ、今年度は新活動地を中心に整備を進め、又、大きく変わっていく千堤寺地区の街づくりに協力を優

先した活動を進めていきたい。竹林整備グループの創設等も考えていますので、益々のご参加をお待ちしています。

(河村政彦)

ナラ枯れ対策

茨木市近郊の里山にもナラ枯れ被害が広がろうとしています。90年代から日本海側を中心に各地に被害が拡大してきましたが、3年前には高槻市、茨木市などにも侵入し、昨年は守る会の活動地周辺でも被害木が見つかりました。

「ナラ枯れ」は、身近な里山によく見られるナラ類、シイ・カシ類の樹木を枯らす森林病害虫被害で、媒介昆虫のカシノナガキクイムシが幼虫の餌として運ぶナラ菌が木を枯らすもので、蔓延すれば里山の景観を損ない、水源涵養や災害防止といった公益的機能の低下をもたらします。各地の被害の広がり方からみて、今年には茨木市の里山で蔓延しそうな心配です。

守る会では、昨年からのナラ枯れの勉強を重ねてきました

が、京都府立大学の小林正秀講師の指導を受けて、ペットボトル・トラップで



カシナガが穿入し、樹液を出すコナラ

媒介昆虫を捕捉して被害の拡大を防げないものかとチャレンジすることにします。

(橋爪新太)

2011年度下半期

特別活動報告

農業祭・雨のち晴れ!

(雨降り作業中)

一日目は、あいにくの雨降り。でもテント前にフライシートを張り、雨対策。訪れるお客さんも、スタッフも大助かりでした。

二日目は、昨日と打って変っていいお天気に恵まれて多くの市民が訪れ、一日中賑わいました。

体験コーナーの竹切り(竹ポックリ)、丸太切り(重さ当て・金メダル授与)、竹魚釣りには、大勢の親子連れが来場し、歓声をあげ、楽しめました。また、小さな女の子達が、熱心にペ



わわいでしょう!)



(よいしょ、よいしょ!)

ンダント作りを楽しみました。竹トンボ、ぶんぶん駒、竹笛、セミ、ツル製品、柳水栽培品等々の売れ行きも好調でした。

準備段階から本番まで会員皆さんの協力で無事終了できました。

次回も守る会の日頃の活動成果発表の場として、皆さんで参画しましょう。(二階蔵彦)



お疲れ様でした!

## 特別活動を振り返る

23年度農業祭を控えた11月初め、わが会の設立5周年を記念して行なった「奥大山自然観察会」は、絶好の秋日和に恵まれ、参加者全員紅葉真っ盛りのブナの森散策を堪能しました。

特別活動グループでは、大好評だった宿泊観察会を次年度からの年中行事とすることにし、目下行先選考中です。他にこの一年間は、次表に示す多彩な行事を行いました。いずれも多数の市民、会員や会員家族が集まり、わが会の特別活動が益々充実してきたことを実感しました。次年度は、これらのイベントに加え、より多くの人たちが集まる企画を考え、「守る会」ファンを増やしていきたいと思っています。

最後に奥大山の楽しかった思い出アルバムをYou Tubeに公開していますので是非ご覧ください。  
(太田仁)

23年度特別活動実績表		
メニュー	活動日	活動人数 (準備活動を含む)
1 春の山菜料理会	4/17 日	42
2 JICA竹林整備体験支援	7/28 木 8/18 木	48
3 夏の親子工作教室	8/6 土	72
4 奥大山自然観察会	11/1 火 ~11/2 水	24
5 農業祭	11/19 土 ~11/20 日	243
6 新人歓迎会	12/3 土	10
7 年末餅つき大会	12/17 土	55
8 大忘年会	12/25 日	31
9 新年とん汁会	1/7 土	44
10 第2回北摂3団体交流会	3/11 日	14
合計		583

## 雑木林づくりに参加して

私たちは、六年前に千提寺の共有山に入りました。

当時、共有山は常緑樹のソヨゴが生い茂り、暗く荒れた天然林でした。

私たちは『農林用として活用されていたかつての里山を再現させよう』『常緑樹を間伐し、落葉樹、花木、果木は残す。』という大雑把な方針のもとに、間伐整備を始めた。

一年後には、明るい雑木林として、生まれ変わりました。コナラやアベマキ、数少ないクヌギの周りに、背の高いリョウブやコシアブラ、山桜など、小低木のガマズミ、カマツカ、クロモジやネジキたちが目立つようになりました。

春になると若葉が萌え出し、つぼみがふくらんできました。陽の光を浴びて、キラキラと輝いています。シヨウジヨウバカマや、イチヤクソウなども顔を出してきました。

初めのころは、同じように見えていた草木たちが、それぞれ違った表情を見せてきました。個性あふれる多彩な連中が、自己主張しながら雑木林を構成しています。



(里山センターの秋)

## “雑木林は心のオアシス”

福島原発の事故後、「物質的豊かさ」から『精神的豊かさ』へと、人々の意識は変化していると云われています。今後、雑木林がそういう人々の心のオアシスになると思います。もともと多くの茨木市民に里山の楽しさを体験してもらおう活動が求められているように思います。

最後に、私たちの会が、いつまでも雑木林のような会であればよいと思っています。スーパーヒーローはいないけど、会員一人ひとりが知恵を出し合い、力を合わせて発展をすればよいと思っています。

私も『茨木里山を守る会』の一員としてがんばりたいと思います。  
(古川伸夫)

## ミーティング

(みなさん よろしくね!)

私たち七期15名は、昨年11月に養成講座を無事修了し、全員が守る会へ入会しました。早速、定例活動や特別活動、また研修などへも参加しています。



活動への関わり方は各者それぞれですが、里山里山への想いを基に、先ずは守る会へ馴染み、たのしく活動を続けて行ければと思っております。

知識やルール、楽しみ方など、まだまだ知らない事ばかりですので、皆様の温かいご指導をどうぞよろしくお願い致します。  
(東野陽二)

## 守る会キャラクターを募集!

|| 里山の森・妖精コンテスト ||

あなたの自由な発想で、森の守り神のイメージを形にしてください。

応募締切5月30日

詳細は、別途お知らせします。

(キャラクター委員会 中島謙一郎)

## 豆知識

**ヒサカキ** (ツバキ科ヒサカキ属)

常緑小高木。雌雄異株

とも言われるが、両性花を付ける株や山火事後に性転換する株もあり不確定。本州以南に非常に多く分布し、どこの照葉樹林でも生える。乾燥にも強く尾根筋にも生育するが、その秘密は葉の気孔にあるらしい。また庭木としても人気がある。

早春に開花し、都市ガスのような独特な匂いを放つ。墓や仏壇に供えたり、榊が手に入りにくい地方では玉串に使う。名前の由来は榊ではないから非榊、榊より小さいから姫榊がなまったなどの説がある。

(小川卓)



## 安全活動のルール



前回では、創立以来発生したヒヤリハット内容の分析と、活動内容の変遷を見てくださいました。

初期の段階(平成20年位まで)では、大変込み入った天然林の間伐や、そこに容赦なく侵入した竹林の整備です。対象木もソコゴ等中径木(直径20cm以下)が主体です。殆ど手ノコで、たまに枯れ松処理にチェーンソーを使うといった状況でした。

次の段階(平成22年位まで)では、目的をもった竹林整備やサポーター養成講座のアシストや間伐体験指導等多くの人達に指導する事も含めた活動に乗り出しました。

この頃から定例活動やネット活動で本格的にチェーンソーや刈払機が使用され出しました。

とところが活動に動力機械が導入されると一緒に活動をしていて機械を使用しない人の安全が脅かされる可能性が出てきました。この為、チェーンソー講習会等を組織的に実施し出しました。又、部外団体の研修会があれば積極的に参加し指導者の育成に努めました。急斜面でのヒノキの伐木ノウハウなどを学びました。

妙見古道の新名神工事がらみで自治会の要請などもあり、ヒノキやクスギ等の大径木の伐採が本格的に始まりました。



(講習会風景)

特にチェーンソーを使つての伐木は、**安全を第一**として、**マニュアル通りに実施**する事を徹底的に心掛けました。そんな積み重ねから危険な状況に会つた事もなく、過去に伐採したことのない大径木も処理が出来るようになりました。

ヒヤリハットの回数も平成20年の19件をピークに、本年度は4件と減少しています。守る会の安全意識のレベル及び動力機械への習熟度合は、ボランティア団体としては比較的高いレベルにまで達しています。



(突っ込み切りデモ)

しかし、里山保全活動の安全を図る為には、実はこれからが大事であり又大変なのです。現在の守る会に求められる安全対策のレベルは、飛躍的に高くなっています。

例えば大径木の伐倒で絶対に必要な事がチェーンソー担当者の「**退避行動**」です。倒れ出している木に見とれてか、全く動かない人がほとんどです。せめてそこで一歩下がれば安全はぐっと増します。

ところが口を酸っぱくして言つてもこれがないか出来ません。これなどは体で覚える必要のある事項でしょう。体で覚える為には慣れも必要です。その為には、例え手ノコでソコゴの伐木時でも、倒れ出す時は「**一歩下がる**」といった基本行動が必要です。

又安全な伐木の基本は「水平及び伐倒方向に直角に切る」ことですが、これは視覚や

感覚よりも水準器等を使えば正確に覚えませす。斜面作業のルールも覚えるでしょう。

我々の活動の中では**体で覚える**必要のある事項と**理屈で覚える**ことが出来る事項をバランスよく体得する事が必要です。又、**個々人が覚える事とチームないし守る会全体で覚える事**のバランスも絶対的に必要でしょう。

### 森林ボランティア保険

東日本大震災のボランティア募集記事には、「危険性があることを理解し、自己責任で参加できる方」との条件がありました。

当然、ボランティア活動の茨木里山を守る会にも同じことが求められています。不慮の事故を想定し、賠償責任保険と傷害保険に加入しています。

賠償責任とは、第三者に対する賠償保険であり、傷害保険は、会員対象の傷害保険となります。

賠償責任	対人・対物	2億円
	管理財物	50万円
	見舞費用(入・通院)	1~10万円
障害	死亡・後遺障害	500万円
	入院日額(最高180日)	3000円
	通院費額(最高90日)	2000円

(詳しくは担当迄)

事故が無いことを期待しますが、起きた場合は、速やかに担当までご連絡ください。

(齊藤哲実)

### 倶楽部紹介

#### 山菜クラブの活動

山菜クラブでは、毎年4月に山菜の天ぷら会を実施しています。

もちろん、山菜は自分たちで山から摘んだものを調理しています。



(タラの芽)

タラの芽など、一度は聞いたことのある山菜が意外と身近にあったのは驚きですよ。

ご家族や、友人・知人にも声掛けしてご参加ください。

その他の活動については、現在検討中です。方向性が決まり次第、改めて会員募集をしたいと思えます。

(林孝治)

### 編集後記

東日本大震災から早や一年が経ち、記憶が人々の心から薄れそうになっているのではと気懸りです。ボランティアの手助けがまだまだ必要視されています。継続！続ける事は、次を予測しながら幾つもの手を持ってチームとしての総合力を發揮し、見て、聞いて、嗅いで、触ってみよう。これを念頭に充実した活動に取り組んでいきたいものです。

(小泉美智子)

(編集委員)  
板倉百合・井上重吾・宇佐文哲・小川恵子・小川卓・佐野毅・小泉美智子・田中進二・藤原滋・松原健男・二浦瑞恵